
24時間

大島なるみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

24時間

【Nコード】

N7164B

【作者名】

大島なるみ

【あらすじ】

時間の流れは、全てに等しいスピードで流れているというけど、本当なの？ふとした疑問から沸き上がった短篇です。

「誰しにも与えられた1日の時間が、“24時間”以上は存在しないと言うのは間違いだと思ってしまう。

時間の早さが、毎日毎日全て同じ感覚だなんてあるはずがない。それは苦痛な時程長く感じ、楽しさを思えば早く過ぎ去ってしまう。それなのに、それでも“24時間”という区切りにはめ込まなければならぬのかと思うと納得がいかないんだ」

そんなことを、かつて誰かが言っていたような気がする。

杉本薫は眉をひそめて、もやのかかった記憶の奥をさぐり始めた。思えば随分と正論なようで自由奔放な理屈だ。

こんな言い回しをする奴は、薫の中ではたった1人しか存在しない。“井上孝一郎”それが彼の名前だったと思う。

薫とは大学で知り合った、人生の中で4年というちょっとした期間で関わりを持った人物だった。

それでも彼の名前をきちんと覚えていたのは、おそらく薫にとって井上孝一郎という存在が一風変わったものだったからに違いない。

井上孝一郎は第一印象からすれば、一般的ないわゆる“今どき”の男子学生だった。

外見もさほど気取ってるインテリ派でもない。

だからこそ、口を開いた時のその理屈っぷりに周りは驚きを隠せなかったと少なくないと聞いていた。

そんな孝一郎が生み出した数々の言葉の中で、何故か薫の中からいつまでも消え去らずにいるのが、この“1日24時間”理論だった。比較的、時間というものを自由にゆったりと使いこなすことの出来ている大学生の中で、孝一郎だけはいつもそんなことを考えていたらしい。

「考えすぎだよ」

「大げさだなあ、孝一郎は」

と、当時の孝一郎の言葉に返されていた言葉は、悠長なものばかりだった。

もちろん、薫の言葉も同じ類だったのに…。

変な話だわ、薫はふつと嘲笑した。

それはかつての孝一郎ではなく、かつての自分に向けての嘲笑だった。

もしかしたら、孝一郎はあの時点でもう気付いていたのかもしれない。

“時間”という目に見えないものの、時に感じさせる残酷さを。

そして今、それを身を持ってひしひしと感じ取っている自分を薫は皮肉だと思わざるをえなかった。

「杉本さん、何してるの。その仕事は今日の定刻が納期なんだから、ボーツとしてないで急いで頂戴」

斜め向かいからかけられたその言葉に、薫はようやく我に返り、

「す、すみません。只今」

と、また慣れないPC業務に没頭し始めた。

あんたの言うとおりだわ、孝一郎。

これだけ切羽詰まった時間が、誰しも同じ“24時間”だなんて…納得がいけないわよ。本当にね。

そんなことを心の中でボヤきながら。

E
n
d
.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7164b/>

24時間

2010年10月10日08時07分発行